



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：松波 恒彦
幹事：平野 好道
クラブ委員長：犬飼 達郎
例会日：毎週木曜日PM12:30～
会場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1590回例会

～識字率向上月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2013年3月7日(木) 晴 第34回

司会：堀慎治会場委員長
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」
ゲスト：社会福祉法人 日本介助犬協会
事務局長 高柳友子さん
広報部 柴原永佳さん

会長挨拶

松波恒彦会長

皆さん、こんにちは。本日のゲストは社会福祉法人日本介助犬協会事務局長高柳友子さん、同じく広報部の柴原永佳さんです。本日は高柳友子さんに卓話をして頂くことになっています。後程また、ご紹介をさせていただきます。私の仕事は獣医師ですので、犬に関わるお話をこの会長挨拶で数回程させていただきましたが、本日の卓話では人間の社会に大きく関わる問題として、介助犬のお話を高柳先生にして頂きます。



話は変わりますが、3日程前、鈴木圓三さんから「先生、瑞穂警察の方が先生の所に行くので、ちょっと頼まれてくれないかな？ちょっと、鑑定してほしい。」とお電話を頂きました。全長2.5cmの胎児がアパートの廊下に血痕と共に放置されており、瑞穂警察の刑事課の2名の方が事件性があるのではと鑑定依頼の為にいらっしゃいました。「これは人間の胎児でしょうか。それとも、動物の胎児でしょうか。」ということで、初めての、そのような証拠品を映画以外で直に見ました。しっかりと袋に入れられ、シールが貼られ、判子が押され、日時が書いてありました。それを開けさせて頂き、拝見しました。副院長、息子と呼びましたが、その時点では何かは分からず、よく調べようということで顕微鏡で見ました。人間の胎児も尾てい骨がありますので、数週間は尻尾があります。その辺りをよく観察いたしました結果、猫でした。その後、血液の鑑定をすると、やはり猫でした。これが胎児だということになると、大変だということで瑞穂警察の方は安心していました。鑑定のお礼としてシュークリームを30個頂きました。獣医師として世間のお役に立てたかなと思っています。ありがとうございます。

出席報告

松井文一郎出席委員

会員64名 出席48名 (出席計算人数48名)

出席率 88.9% 2月28日は補填により 86.8%

3月誕生日おめでとう

伊藤 豪さん 岩本 成郎さん 大川 嘉成さん

ニコボックス

鶴田浩ニコボックス委員

- ・ 今月14日は結婚記念日と妻の誕生日のダブル記念日です。
鈴木淑久さん
- ・ 遅ればせながら…1月は誕生日でした。
吉木洋二さん
- ・ 3月16日は家内の誕生日です。
森恒夫さん
- ・ 今年は寒い日が続きましたがようやく春らしくなり、日も随分と長くなりました。3月1日は傘寿80才になりました。これからも相変わらずのふるまいを宜しくお願いします。
岩本成郎さん
- ・ 今日日本介助犬協会の事務局長さんにお話しをして頂きます。
松波恒彦さん
- ・ 先日、泉君、亀井君にお世話になりました。
長瀬憲八郎さん
- ・ 研修委員会の皆様、先週はありがとうございました。勉強になりましたが、奥が深そうな気がしました。
湯澤湧生さん
- ・ とうとうJリーグ開幕、今週末は名古屋ウィメンズマラソンです。
山口哲司さん
- ・ 年度末になり、キビシイ毎日です。
山本英雄さん
- ・ 久しぶりに出席しました。
田中隆義さん
- ・ 高須さん、堀さん、鈴木淑久さん、先日は伊豆川奈での楽しいゴルフにお付き合い下さり有難うございました。おいしい料理とお酒に人生の幸せを感じました。
野崎洋治さん
- ・ 2月22日から3月1日まで、地区ポリオプラス委員会でインドのNID(インド全土でポリオワクチンを一斉に投与する日)に参加して、その後ブータン王国に移り前方のロータリークラブと友好を深めて参りました。
増田盛英さん
- ・ 野崎さん、お世話になりました。楽しい週末を過ごすことが出来ました。
高須洋志さん
- ・ 西典代先生の謝恩パーティーに出席してまいりました。
江口金満さん

幹事報告

平野好道幹事

- ・ 本日13:40よりヒルトン名古屋4階「梅の間」にて第5回CA、第9回理事会を行います。
- ・ 3月14日はR規定に基づき休会です。
- ・ 3月15日台北延平RC36周年記念式典に参加します。
- ・ 3月14日、15日は事務局が休みとなります。
- ・ 3月21日13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて新旧会長・副会長・幹事懇談会を行います。
- ・ 嶺木一夫さんが高齢の為、3月5日付で退会届を提出されました。

国際奉仕委員会報告 本多清治国際奉仕副委員長(延平班長)

3月14日より台北延平RCへ公式訪問致しますが、その際に事務局員の2名も同行させていただきます。その旅費につきましては、理事会で皆様方からカンパを頂くということに決定致しました。事務局員の2名が初めて参加致しますので、是非ともご協力を宜しくお願い致します。

インドポリオワクチン投与活動 増田盛英地区ポリオプラス委員長

江崎柳節バストガバナーを団長として総勢20名で2月24日(日)のインドNID(ポリオワクチン全国一斉投与の日)に参加すべく2月22日からインドに向け出発しました。20名の内3名はアクターが参加しました。アクターのうちの1名は名古屋熱田RACの笠原千沙子さんです。当クラブからは高須直前会長に参加して頂きました。今回は、夫々が5~10名の5歳以下の子ども達にワクチンを接種することができ大変意義深いものとなりました。前日の23日には2830地区の関場バストガバナーと合同でポリオレポート会議及び印日親睦会に全員で出席して意見の交換を行い国際ロータリーの悲願であるポリオ撲滅を誓いました。

2月25日に高須さんとアクター3名は帰国しました。残り16名の参加者はブータン王国に移り25日には昨年認証をされたThimphuRCと交流をして友好を深めて参りました。江崎団長よりグローバル補助金・米山奨学生等ロータリーには色々な制度があることを説明して頂き理解を深めて頂きました。

そして、3月1日に全員無事帰国いたしました。

5月9日にアクター諸君に卓話でポリオの話をしてもらいます。



地区被災高校生支援委員会報告 近藤雄亮地区被災高校生支援委員

今週の月曜日、地区の被災高校生支援委員会がございました。その際、皆様方から申し出のありました寄付の内訳の中間発表がございましたので、発表をさせていただきます。地区としては、32,400,000円集めることを目標にスタートしましたが、現在までに、41,638,888円の寄付の申し込みがあり、入金額は21,547,888円です。因みに地区の現在の会員数は4,883名です。名古屋瑞穂RCは67名の会員に対して45万円でしたが、皆様のご協力を得て108万円の寄付をすることになりました。寄付申込額が予定より大変多いため、現在、その執行について第2520地区と話し合っています。その中で、支援高校生について、初め岩手県の高中生30名を対象にスタートしましたが、支援の範囲を宮城県まで広げ総勢35名を支援することになりました。そして、西名古屋区分は最初7名の支援を予定していましたが、予算が増えた為、10名を支援することに決まりました。3月16日の会長エレクト研修セミナーで正式に依頼があると思います。また、男子用女子用の色紙に激励文を一言書いて欲しいという依頼もあるかと思うので、考えておいて下さい。よろしく願いいたします。

卓話 社会福祉法人 日本介助犬協会 事務局長・医学博士 高柳友子さん

障がい者の自立を支える介助犬

介助犬とは、手や足に障がいのある方々の日常生活動作を助けるために、落としたものを拾って渡す、手が届かないものを持って来る、引き出しや冷蔵庫を開けて中からものを持って来る、緊急時の連絡手段として携帯電話などを手元に運ぶといった動作を行うよう訓練された犬のことをいいます。介助犬は、2002年に制定された身体障害者補助犬法(補助犬法)で法的位置付けが明確になり、補助犬法では、同法により認定された介助犬を使用者である障がい者が同伴する事を拒んではなら



ないと定められました。未だこの法律の認知度が低いため、介助犬使用者が飲食店や店舗、医療機関などで「犬は置いて」と店舗の利用を断られてしまうことが多々あるのが実情です。補助犬法では、介助犬より40年歴史の古い盲導犬、そして介助犬よりさらに少ない聴導犬の3種の犬を総称して身体障害者補助犬、略して補助犬としており、これら補助犬が認定を受けると、使用者は補助犬法に則り「盲導犬」「介助犬」「聴導犬」の区別が書かれた表示をつけ、また認定証と健康管理手帳を携帯することが義務付けられます。認知度の高い盲導犬ですら同伴拒否に遭うことがありますが、補助犬を断ることは、使用者自身を断ることと同じだということをご理解頂きたいと思います。

介助犬は、前述したような動作のほか、歩行介助や起き上がり・立ち上がりの介助、衣服や靴・靴下の着脱、スイッチ操作を行うなど、多様な障がい者のニーズに合わせてリハビリテーションの一環として介助内容が決められます。身体障害の背景として進行性の疾患や重度な合併症、体調の変動が大きいなど多彩な医療的配慮が必要なのが介助犬の大きな特徴で、介助犬トレーナーありハビリ医療関係者との密接な連携が必要です。自立のためには様々な手段がありますが、介助犬は機能的介助に留まらず、障がい者の生きがいとなり様々なチャレンジへの動機付けとなります。また周囲の人々と犬を介して会話が広がるのが大きなリハビリ効果を発揮し、元気と勇気を与えられます。



現在介助犬は全国に62頭(平成25年2月1日時点)、対象となる障がい者は175万人、中でも1万人以上の潜在需用者がいるといわれています。普及への課題は、認知度が低いこと、また財源が寄付に頼られている事が主ですが、その為に訓練士の資格制度がなく、また遺伝性疾患のない補助犬の確保が難しい等の課題もあります。

これまで最も長く、零細ながらも最多の実績を残してきた当会は、2009年新たなる介助犬普及への挑戦として、全国で初めての介助犬専門訓練施設「介助犬総合訓練センター」を愛知県長久手市に建設しました。訓練センターは、補助犬法制定のきっかけとなった故介助犬シンシアにちなんで「シンシアの丘」と名付けられました。

介助犬の普及を支えてくださる企業や個人のみなさまに会員等の形でご協力頂くお願いをしております。一人でも多くの方々に介助犬の存在を知って頂き、また一人でも多くの障がい者が介助犬によって自立し、楽しく社会参加出来る様にご支援頂ければと願います。

地区から委嘱状

近藤雄亮さんが委嘱状を頂いています。

第2760地区2013-2014年のガバナーエレクトにご委嘱申し上げます。何卒ご協力の程お願い申し上げます。



例会のご案内

■3月14日(木) R規定により休業

■次週卓話 3月21日(木)

卓話講師：有限会社旅工房
代表取締役社長 寺西正さん
テーマ：知って得する旅の裏話

■次々週行事 3月28日(木) 第1592回例会及びI. D. M.

場所：ヒルトン名古屋4階「桜の間」
時間：18:00~20:00